

北部普及だより

自然にも人にも優しい、れんげで育てたお米はいかが？ ～「大阪の米どころ」北部地域の米生産の取組～

北部管内は、豊かな自然に恵まれ、特に中山間地域では清らかな水と、昼夜の気温差が大きく良質の米が生産できます。そのため、水稻の栽培が盛んで、「大阪の米どころ」となっています。



▲れんげ栽培の様子

管内の茨木市では、「れんげを緑肥として利用した環境にやさしい水稻栽培で、新たな特産品づくりに取り組みたい」と、平成 27 年産米から、エコれんげ米生産を推進し、茨木市見山地区をはじめとした中山間地域の早生米（キヌヒカリ、ひとめぼれ等）生産者を中心に、取組が始まりました。

中山間の早生米地帯でのれんげ栽培は珍しく、田植え準備までに緑肥として十分なれんげが生育するのかという不安を抱えながらのスタートでした。緑肥に十分な量のれんげの生育を確保するため、稲刈り前(9 月下

旬～10 月上旬)にれんげの種をまいたり、田植え時期を慣行より 10 日ほど遅らせるなど、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。

当初は約 4ha で始まったれんげ栽培でしたが、今では約 7ha まで拡大しています。

見山地区では、今年から農産物直売所「de・愛ほっこり見山の郷」でエコれんげ米の販売を始めました。お客様の評判も上々で、エコれんげ米の発売以降、通常の米の売上も伸びています。

こうしたれんげの栽培に取り組む動きは、吹田市、摂津市を管轄する JA 北大阪でも増えつつあり、農の普及課では 9 月にエコれんげ米栽培に興味のある生産者向けの栽培研修会を行いました。今後も、エコれんげ米の生産を呼びかけ、米のブランド化を推進していきます。



▲見山の郷（茨木市）でのエコれんげ米販売

がんばる農家女性**「新鮮な農産物をお届けします」～能勢けやきの里「野菜隊」～**

軽トラックで野菜を出張販売している能勢町にある直売所「能勢けやきの里」の「野菜隊」（代表：平田利江さん）を紹介します。野菜隊は自ら生産した野菜を、直売所に出荷している農家女性10名で構成され、5月～12月まで毎週火曜日、軽トラック2台に野菜を積み、近隣の豊能町ときわ台等の住宅地で出張販売されています。高齢で直売所に野菜を買いにいきづら
いお客様の声に応えたのがきっかけでした。また販売する時には保存方法やおいしい食べ方を説明して、お客様とのコミュニケーションを大切にされています。

12月24日（日）の能勢けやきの里「歳末感謝祭」に向けて、野菜隊を始めとする農家女性が、交流イベントの中心的役割を果たされています。

今後一層のご活躍を期待しています。

●「能勢けやきの里」（住所：能勢町地黄2240）
営業日時： 9時から16時
定休日： 木曜日（1月から5月は月・木曜日）
電話： 072-741-9563 駐車場： 有り



▲けやきの里の「野菜隊」

お知らせ**「第2回北摂地域大阪産(もん)マッチング商談会」を開催しました！**

農の普及課では、11月1日（水）に千里ライフサイエンスセンタービル(大阪府豊中市)にて昨年に引き続き「北摂地域大阪産(もん) マッチング商談会」を開催しました。

今年は出展者(管内で農林畜産物を生産、加工する農業者、農業者団体等)が前回の10者から14者に、来場者(百貨店・スーパー等のバイヤー、飲食店関係者等)は15業者29名から31業者49名に増えました。

商談会終了後、来場者からは「出展が北摂に絞られており、面白い」「北摂の特産品等について、勉強になった」、出展者からは「今栽培している農産物の評価が知ることができた」と双方から前向きな意見や感想を多く聞くことができました。



▲商談の様子

表彰おめでとうございます

高槻市の小原眞一郎さんは先進的な花壇苗経営を展開し、地域振興や担い手育成に貢献された功績が評価され、今年の11月に「公益社団法人 大日本農会 農事功労者 緑白綬有功章」を受賞されました。誠におめでとうございます。

「守れていますか?! あなたの知的財産」

「知的財産」ってご存知ですか?自らが育成した品種や自らの農産物のブランド化のために作成した名称やマークなどを「知的財産」といい、権利を守っていくためには品種登録や商標登録などが必要です。詳細は、品種登録については大阪府農政室推進課(06-6210-9593)、商標登録については知財総合支援窓口 大阪(06-6479-3901:予約制)までお問い合わせください。